

目的 古くから糸をはじくことが行われてきている。この糸をはじくことに意味があるか疑問を感じ、前回では、はじく回数が糸の物性にどのような変化を与えるかについて検討した。

近年は縫糸の材質、繊維長、撚り方向などにも多様化がみられる。とくにミシン糸の上撚り方向は手縫糸と異なっている。

そこで、各種の縫い糸が、同一にはじくことによって、これらの構成要因とどのような関連があるかを検討した。

方法 綿・絹・ポリエステルの手縫い糸とミシン糸数種を用い、それぞれ、はじかない糸、および、はじき1回、はじき3回の糸を写真撮影し、撚り数と太さを計測した。

結果 はじくことが糸の繊維長や撚り方向などによって、糸の太さや撚り数にどのような変化がみられるか検討した結果、スパン糸よりフィラメント糸が、上撚り方向がZ撚りよりS撚りの方に効果のあることがわかった。特に絹の手縫い糸に効果が大きかった。